

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「 未来の暮らしに光を 」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 3年 ^{いわまつ}岩松 ^{まお}麻央

私たちの暮らす日本では豪雨、地震、津波、台風などたくさんの自然災害が多い。いつ起こるか、来るかわからない状況で暮らさなければならない私たちは、自然災害から身を守るためにどのようなことを身に付け、行動したらよいだろう。

たくさんの災害がある中で私たちの身近にある気候変動は特に深く詳しく考えなければならない災害だと思う。1日の予定を立てるには天気変動についても必要な情報だろう。天気には快晴、曇り、雨、煙霧、あられなど気象庁では15種類に分けられている。その中でも厄介なのが、地盤が緩みやすくなってしまいう雨や嵐などだ。雨にも雨の良さがあるとしても、雨が降り続けてしまうと地盤が緩み、山が崩れてきたり川が氾濫したりという災害が起こってしまう。

実際に4年前の2018年に私が住む喜界島も50年に一度の大雨で、山から土砂が流れてきたり、川が氾濫したりした。当時の私はテレビで流れている喜界島の現実を受け止められなかった。その時私は、運良く島にいなかったため変わり果てた島の姿を目の前で目の当たりにすることはなかった。だが、映像からでも伝わってくる土石流の恐怖は今でも鮮明に残っている。その後島に帰ると、近所の家の屋根やバス停は飛ばされていたのがほとんどだった。今の私が通う中学校の図書室も、窓から雨が入り込んで床が水浸しになってしまったという。それから何ヶ月経っても、屋根がブルーシートに覆われている家は多く、飛ばされたトタンは100メートル先まで飛ばされ大きく変形していた。この時は運良く当たらなかっただけで、またいつかの災害でこのトタンが家や車に飛んでいってしまっていたらと考えると、今から災害に備えていて損はない。

一般的な災害時に必要な物は水や食料、電灯、薬、情報を得られるラジオなど個人的に必要な物だという。私はある出来事で、これらの物を備えておくことの大事さを感じた。それは2022年1月にミクロネシアのトンガ王国で起こった海底火山の大噴火だ。私の家は災害に対しての備えを全くしていなかった。だから慌てていた。準備をする暇もなくすぐに山の方へみんな避難した。でも何時間か経った頃にだめだと分かっているながらも必要な物を取りに家へもどってしまった。最終的に島に津波が来ることはなかったが、災害が起こってから準備をするのでは間に合わない。そう分かってから私の家では避難用の荷物を準備するようになった。

実際にこういう経験がなかった私にとっていい意味で、いい刺激をもらった。4年前のような大雨の災害ではないが、いつ起こるか分からない災害の備えをすることの大事さを心から実感した。そこで、この作文を通して災害対策について調べることにした。

まず、家の中でできることは、家の中で安全な場所を確認すること。自分にできることは、応急手当の知識を身に付けること。家族でできることは、避難場所や避難道路、集合場所の確認など意外にも自分の身の回りには今すぐに備えることの出来ることがたくさんあった。

自分の身近にある物を確認したり、備えたりするだけで、突然の災害で命を救えるかもしれない。未来がある人たちを守るためにも、自分やその大切な人たちを守るためにも後悔することのない対策ができていたら、それが1番理想だと思う。

見える未来の暮らしの光を途絶えさせないために、自然災害の備えは確実に必要だと今まで体験した災害やこの作文を通して学んだ。突然起こる災害で私のように災害が起こってから準備するのではなく、起こる前に備えておくことが未来の暮らしの光を途絶えさせないためのひとつの考えではないだろうか。